

# 難治な痤瘡に十味敗毒湯



## 野本 真由美 先生

医療法人社団素馨会 野本真由美スキンケアクリニック

1998年 信州大学医学部 卒業  
 同 年 新潟大学医学部 皮膚科学教室入局  
 2006年 美容皮膚科の勉強のため米国留学  
 2007年 野本真由美スキンケアクリニック 院長

### はじめに

ニキビ・肌荒れの治療には、抗菌薬の内服や外用などの標準治療が奏効しない症例も多い。また、難治な痤瘡の場合、スキンケア等の外面的な問題のほか、ホルモンバランスの乱れや酸化ストレスなどの内面的な問題にも対処する必要があるが、これらに対する西洋医学的アプローチはないため、漢方薬を用いている。

### 十味敗毒湯の高用量・短期間投与の効果

従来治療では治療困難な尋常性痤瘡患者122例に対し、クラシエ十味敗毒湯9.0g/日(常用量の1.5倍量)を3週間投与し、その効果を検討したところ、改善率は79.5%であり、副作用はなかった(図1)。

症例(27歳 女性)は、10歳代後半より繰り返し再発する痤瘡に悩まされており、他院皮膚科を受診したが改善がみられなかった。従来の治療(クリンダマイシン)に加え、クラシエ十味敗毒湯9.0g/日を3週間服用したところ、紅色丘疹、膿疱が消失した(図2)。

### 十味敗毒湯服用前後の抗酸化作用に関する検討

漢方薬の薬効発現機序に関する近年の科学的な研究から、漢方薬の腸管の免疫賦活作用、強い抗酸化作用が知られるようになった。一方で女性の痤瘡が難治な理由とし

て、活性酸素の増加、性ホルモンバランスの乱れ、不適切なスキンケア・メイクが考えられることから、これらの共通点である酸化に注目した。

老化・病気の7割以上が関わりとされる酸化ストレスは、

図1 十味敗毒湯の高用量・短期間投与の効果

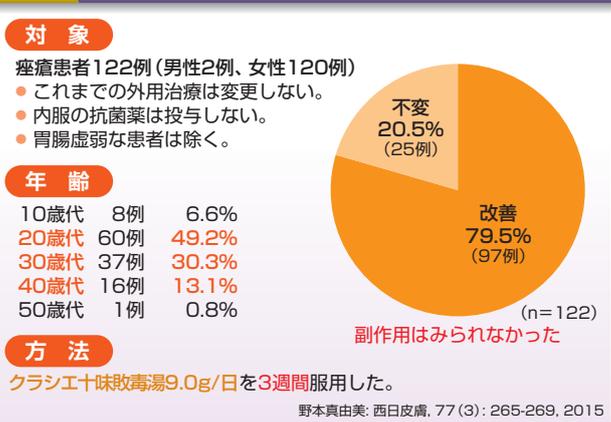


図2 症例 27歳 女性 尋常性痤瘡



「酸化物質の生成」と「抗酸化反応の低下」により、生体が酸化に傾いた状態である。

そこで、難治性痤瘡患者53例(成人女性、20歳代；45%、30歳代；27%、40歳代；28%)を対象に、クラシエ十味敗毒湯9.0g/日を3週間投与し、酸化ストレス・抗酸化力の測定機器FREE carpe diemを用いて、血中酸化ストレス(d-ROM)と抗酸化力(BAP)がどの程度関係しているかを検討した。痤瘡の主な発症部位は、フェイスライン(33.3%)、下顎(19.8%)が多かった。

**皮疹数への影響：**炎症性皮疹、非炎症性皮疹のいずれも十味敗毒湯服用3週間後に有意な減少が認められた(図3-①)。

**血中d-ROM値への影響：**十味敗毒湯の服用前高値群においてのみ有意な低下が認められた(図3-②)。

**血中BAP値への影響：**十味敗毒湯の服用前低値群におい

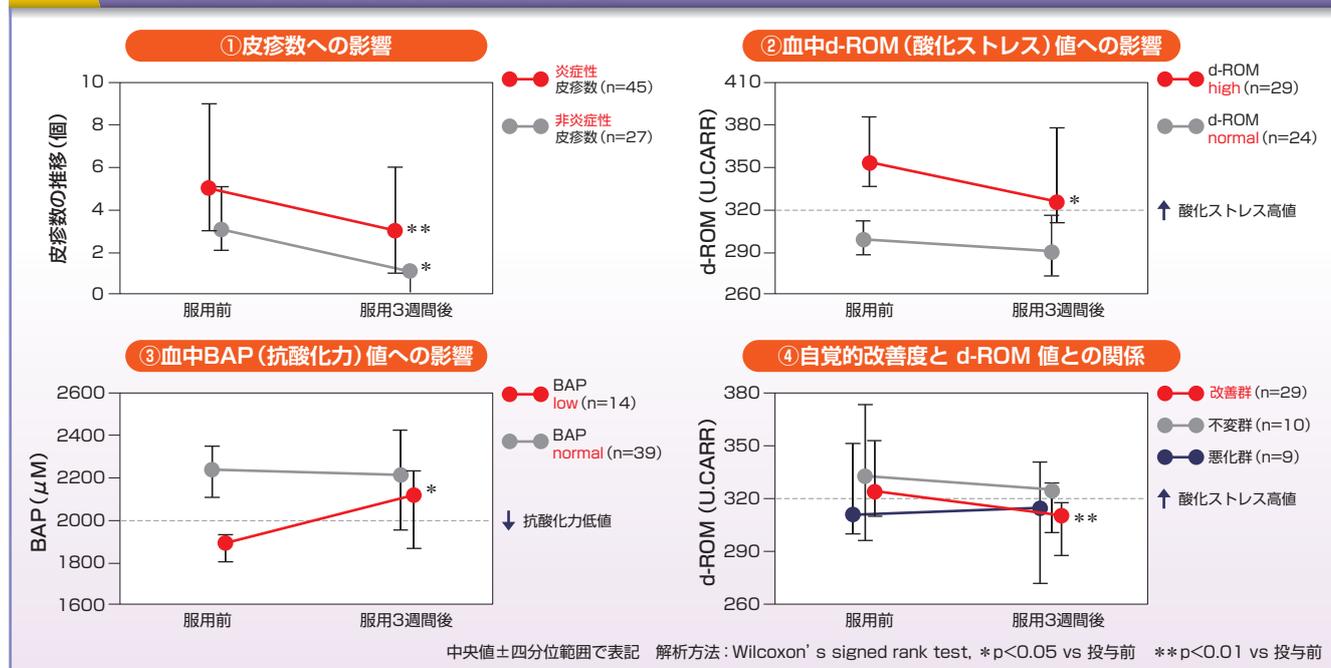
て、有意な上昇が認められた(図3-③)。

**自覚的改善度とd-ROM値との関係：**改善群においてd-ROM値の有意な低下が認められた(図3-④)。

### まとめ

標準治療が奏効しにくい女性の難治な痤瘡患者に十味敗毒湯の高用量を短期間に投与したところ、79.5%に改善が認められた。しかも、炎症性皮疹だけでなく、非炎症性皮疹にも有効であった。十味敗毒湯は生体の酸化ストレスバランスの調整作用を有することが示唆されたことから、漢方薬による酸化ストレスへのアプローチは、感情面のQOLが低い難治な痤瘡患者にとって有効な治療法の一つであると考えられる。

図3 十味敗毒湯服用前後の抗酸化作用に関する検討



## Discussion

**木村：**痤瘡に対する処方他にもありますが、鑑別はどのようにされていますか。

**野本：**標治としては十味敗毒湯、清上防風湯、荊芥連翹湯の3処方があります。十味敗毒湯は皮膚のバリア機能が低下している方や外用剤の刺激を感じやすい方に、清上防風湯は脂性肌で紅色丘疹以外にも肌に赤みが出やすい方に、荊芥連翹湯は膿疱や結節などができやすい方に用います。一方で本治では、瘀血や脾胃の改善をします。月経関連のトラブルの有無を確認したうえで、当帰芍薬散は赤みが少なく月経前に増悪する炎症の乏しい痤瘡に、桂枝茯苓丸は赤黒く治療後に色素沈着しやすい痤瘡に処方します。また、皮膚は内側から外側に入れ替わる臓器ですので、消化管の状態が決め手になります。私は六君子湯、半夏瀉心湯、真武湯などをよく用いています。

**木村：**投与量の調節について教えてください。

**野本：**常用量で効果が不十分な場合に1.5倍量で効果が高まるという先行研究があります。まず、患者さんに「効く」という印象を持っていただくと治療の継続が容易になり、早期の炎症コントロールと寛解維持の両方が可能となります。しかも、常用量に戻したら症状が再燃するということは漢方薬ではほとんど経験がありません。月経前などのストレスがある時期にはその時だけ1.5倍量に増量するような使い方も良いと思います。